

た。秋になりその祖母が蜜柑をわけてほしいと母を尋ねて来て言うのには、齒茎から血が出て止まらない。お宅の息子さんは果物をどっさりとして元気になられたと聞きましたのでとの事でした。円光君は年末には、髪の毛が抜けて亡くなりました。父は七〇八十年草木も生えない噂に驚き、私が寝ている内に尾道中学校に転校手続きをしていましたが、大阪、神戸からの罹災者の師弟で一杯で結局中学三年は三学期の期末試験だけで四年生になりました。食料事情は戦時中より戦後が大変で、寄宿舎でシボラレタと部屋で話していたら、地理の舎監がガラス戸をガラリとあけて、毎日コウリヤン飯や飲まずくわずの貴様等を絞っても油は出るかと怒鳴られたのは、悲しくもあり、笑いでもあった。このような生活です

から、因島に帰り、母や姉の心づかいのごちそうは、つい食べ過ぎて、月曜日は必ず下痢でした。十数年たつ頃、私もブラブラ病となり水泳に行くとき友から洗濯板と、病院では子どもの様な小さい胃と言われましたが二十年たつてやっと正常になりましたが、注射や怪我をした時の出血は二十〇三十分止まらないのが十年前までありました。

このように、原爆の惨事は当時の熱線による惨事だけでなく、ガンに成る率が十数年たつても、一般の人の十倍、二十年で五倍と言われ、ガンに対する恐怖を背負つての生活でした。結婚してからは被爆の記事のところはカミソリでそつとはずして持ち帰ったものです。

あれから五十年がたとうとしています。あの軍国少年の時代から、被

爆で目が覚め、平和憲法を信じ懸命に働いて来ましたが、その間色々な曲折が有りましたが、武力による平和の無い事は定着し、世界の人々も羨む経済大国となりました。しかし豊かになれば人々の中には、ともすれば戦前の汚点を美化とは言いませんが覆いかくそうとしたがるのは、歴史的に世の常かもしれません。おなじ過ちは繰り返しませんから安らかに“と誓った私達は、身体、経済的には恵まれいるとは思いませんが、せめて心は、若く、美しく、美しく”を掲げ、戦中、戦後を語り続ける事で武力によらない平和が、地球上の人々が皆迎えられの事を信じ、祈願いたします。